

「厨芥の有機化と持続的農業」に関する調査

- 1 自治団体名 : 北京(BeiJing)市
- 2 発表者名 : 安 晨陽 (AnChenYang)
(北京市広渠門(GuangQuMen)中学校)
(中国青少年環境安全教育連盟)
- 3 活動名 : 「厨芥の有機化と持続的な農業」に関する調査
- 4 活動期間 : 2011年2月～2014年
- 5 活動場所 : 北京市一般市民の家庭と地域
- 6 活動参加人数 : 累計約800人

7 活動をはじめた経緯

私たち中国青少年環境安全教育連盟は、青少年の環境保全の意識を高め、青少年が環境保全の専門知識を習得すると同時に、実践活動を通じて環境保全の重要性を認識し、さらに、より多くの人たちに環境保全活動に参加してもらうことを目的とし、「厨芥の有機化と持続的な農業」に関する調査を行った。

8 発表要旨

ゴミは、捨てる場所を間違えた宝である。現在、厨芥（野菜くずや食べ残しなど調理場から出る生ごみ）は主に、以下のような方法で処理されている。1、厳密に分類して排出量を抑える方法。2、粉碎してから排出する方法、サンドイッチ式埋め立て工法、焼却法。3、ゴミ発電法。4、堆肥化・飼料化する方法。

北京市では毎日、各家庭、レストラン、事業所などから多くの厨芥を排出している。私たち中国青少年環境安全教育連盟は、厨芥の堆肥化を通じ、有機肥料と農業の結合を実現させる活動を提唱し、推進してきた。

この活動は2011年に、北京市崇文(ChongWen)区の十数軒の家庭の参加により始めたものである。厨芥を21日間にわたり発酵させ、完熟堆肥と土壌を1:1の割合で混ぜて腐植土にし、ベランダの家庭菜園に使い、野菜や観賞用の草花の栽培に使用する。

2012年から2014年現在まで、私たちはたびたび、北京市東城(DongCheng)区と朝陽(ChaoYang)区の多くの地域や学校で、堆肥作りに関する講座を開催し、多くの人たちに実践してもらい、計800人前後の人が厨芥の有機化に関する環境保全活動に参加した。

また、この活動を実施し始めた4年前の2011年から、多くの家庭で完熟させた堆肥が、従来の農業用肥料の代わりに北京郊外の有機農場で使われることにより、土壌の有機性が高まり、環境に優しい有機農業の確立と推進に貢献できた。